

平成 23 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
III 教科別調査結果の概要	
国 語	2
社 会	4
数 学	5
理 科	7
英 語	9
* 得点の度数分布グラフ	11
* 平均点推移グラフ	17
* 正答率調査表	19

I 調査の概要

1 調査の目的

平成23年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成23年3月3日（木）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,682人（男子2,575人／女子2,107人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は473人で、全体に占める抽出者の割合はおおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないようにし、思考力、判断力、表現力等を検査することができるよう工夫すること。
- ④ 全県の視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は256.9点で、前年度より12.3点低い。最高点は459点、最低点は18点であり、その得点分布は（図1-1 P11）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は258.6点（前年度比-11.5点）、女子は254.9点（前年度比-13.4点）で、男子が女子より3.7点高い。その得点分布は（図1-2 P11）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成19年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1-3 P17）のように推移している。

Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 言語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「言語事項」の内容と、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」をもはかる分野を網羅して、検査するものとし、あわせて、全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。
- ② 話すこと、聞くことに関しては、学園祭での提案発表（プレゼンテーション）の場面を取り上げ、話の中心的な部分と付加的な部分に注意し、構成や展開を工夫しつつ、分かりやすくかつ説得力のある説明をする力を問う出題内容とした。
- ③ 説明的な文章については、現代社会を読み解くキーワードでもある「生物多様性」に関する文章を取り上げ、筆者の論理の展開と主張を的確にとらえる力を問うとともに、あわせて、古典の基礎的な力を問う出題内容とした。
- ④ 文学的な文章については、日常的な体験が書かれている文章を読み、内容及び表現の特徴を正確にとらえる力とともに、この文章のメッセージに正対して、自分の考えを具体的な体験を思い起こしながら表現する力を問う出題内容とした。
- ⑤ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は65.8点で、昨年に比べて5.9点高い。最高点は99点、最低点は3点で、その得点分布は（図2-1 P12）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は64.3点、女子は67.7点で、女子が男子より3.4点高い。その得点分布は（図2-2 P12）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成19年度からの5年間の全体平均点は、（図2-3 P17）のような推移である。平成23年度は、平成20年度並の平均点となっている。

平成18年度以前には男女の平均点の差が5点程あったが、平成19年度以降、差の開きは4点以内になっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P19）

☐ 言語事項（漢字・書写・言語生活）

一、二では、親近感や話題性のある短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。一般的にはよくできているが、一の読みのうち、「企（てる）」の正答率が低い。二の書きのなかでは、オの「そな（える）」の誤答率が高い。普段から、日常生活の場面における漢字について学習し、同じ読みの漢字の使い分けにも注意しておきたい。

三の書写は、行書で書かれた語「紀」の部首「糸（いとへん）」について、部首となって漢字となる語を選ぶ、という問題である。行書の特徴である点画の連続について、理解しているかどうかを尋ねた。

正答率は91.5%であり、行書の特徴に対する理解は高いものであった。

四は、敬語に関する問題である。敬語の指導に関しては、丁寧語、尊敬語、謙譲語等が扱われている。今回は、そのうちの謙譲語に関しての基本的な理解を問う出題である。基本的な出題ではあったが、正答率は61.3%にとどまり、謙譲語の指導に関して課題が残った。

☐ 話すこと・聞くこと

一は、話の論理的な構成や展開を考えて、具体例と意見との関係に注意しながら話すことを問う問題であり、二は、話の中心部分と付加的な部分を区別しつつ、論理的な構成や展開を考えながら話すことができるかどうかを問う問題である。正答率は、それぞれ71.2%、47.8%であった。

プレゼンテーションを自分自身で行う機会は、今後の生活の中に現れるものであり、プレゼンテーションについての基本的な理解及び説得力のある説明の必要性は大きい。

また、実際の話すこと・聞くことの場面では、発声や声の大きさ、間の取り方、イントネーションなど、音声表現上の指導の工夫も大切である。

三 説明的文章 出典 「〈生物多様性〉入門」 鷲谷いづみ（岩波書店 2010年6月刊）

「枕草子」第124段 新日本古典文学大系（岩波書店 1991年1月刊）

一は、文章の展開をとらえ、内容を理解し、適切な語句、キーワードを抜き出す問題であるが、正答率は65.5%であった。二は、文章の展開に沿って内容をとりえ、出題に応じた判断ができるかを問う問題で、正答率は31.7%であり、全問中で最も低い正答率となった。文章の展開に沿って内容を捉える力の育成に課題が残る。三は、書き手の論理の展開の仕方をもとに、内容を理解し、そのことをどう表現することができるかを問う問題であり正答率は38.7%と低かった。四は、文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができるかを問う内容把握の問題で、正答率は67.9%であった。五の（1）は、現代語訳を参考にしつつ、現代では使われなくなった古典の言葉の意味を理解しているかどうかを問う問題である。正答率は68.3%であった。（2）は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は90.5%であった。（3）は、古文とそれに対応する現代語訳を手がかりに、文章の展開を文脈に沿って類推する問題であり、ねらいとしては、文脈の理解及び対比という表現の仕方への理解を問うものである。正答率は88.2%であった。

四 文学的文章 出典 「実りを待つ季節」 光野桃（新潮社 平成14年5月刊）

一は、「言語事項」の問題である。事象や行為などを表す語彙について理解しているかを問うもので、正答率は91.8%であった。二は、文章の展開に即して人物の心情をとらえることができるかを問う問題で、正答率は、87.3%と、よくできていた。三は、表現の仕方に注意して読むことができるかどうかについての出題で、擬人法がどのようなものか理解されていることを前提に、その表現効果を問うた。正答率は55.8%であった。四は、文章に表れているものの見方や考え方を理解することができるかどうかを問う問題で、正答率は62.6%であった。五は、文章の展開に即して内容をとりえられるかどうかを問う問題であるが、正答率は51.6%であった。

六は、三つの具体的な話に即して、心くばり・心づかいが表れている行為を読みとり、空気に関する記述に注目させる問題である。授業で教師の板書を見ながら学習している場面を想定した設問である。

（1）の正答率は79.9%、（2）は47.6%の正答率であった。七は、「書くこと」領域の問題である。文章を読んで「心配り・心づかい」について考えたことを、条件にしたがって記述することができるかどうかを問うた。配点15点のうち、0～5点の分布の計が21.1%、6～10点が67.5%、11～15点が11.4%であった。

5 全体を通しての考察

常用漢字の読み書きなどの基本は、おおよそ身に付いているが、訓読みや、やや難しい漢字の書き取りについては、十分に習得されていない面もある。また、言語生活という面では、敬語について、特に謙譲語の理解や使用について、課題が残された。国語力全体としては良好な検査結果ではあるものの、文章の展開をとらえて内容を理解したり、表現の仕方や文章の特徴を把握したりすることなどにおいては、なお不十分な面が見られた。

例年と同様に、本来は易しい問題であっても、考えて書く記述式の出題形式となると、正答率が低くなる傾向にある。積極的に思考力、判断力、さらには表現力の育成が行われなければならない所以であろう。文章や問題文の内容について正確に読む力が十分に習得されていない現状もあり、一層の読解力の育成も必要である。

○ 社 会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また、多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は44.9点で、前年度より8.0点低かった。最高点は90点、最低点は0点であった。得点分布は(図3-1 P13)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は46.3点、女子は43.2点で、男子が女子より3.1点高い。その得点分布は(図3-2 P13)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成19年度から今年度まで5年間の社会の平均点は(図3-3 P17)のように推移している。平成20年度から続けて数点ずつ低下しており、さらに今年度は大きく低下した。その大きな理由としては、記述式の解答が増えたこと。つまり単純に用語で答えるのではなく、文章で表現する形式の出題が増加していることである。単語などは知っていても、その内容を正確に説明できない受検生が多かったということである。また、もう一つの理由として、図やグラフなど資料の数が増えているが、資料を読み解く確かな知識が不足していると思われる。また、男女別比較でみると男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

① 地理的分野

最初の問題、チリの銅鉱山の問題は、正答率7.4%にとどまった。時事的な話題が知的好奇心に結びつかない学習状況が浮かび上がってくる。結果的に出生率と死亡率を示す表から人口増加の割合が高い国を選ぶ問題、二つの市町村の各年齢層の人口推移を示すグラフから過疎化がより進んでいる市町村のグラフを選ぶ問題での正答率が高く、また、選んだ理由の記述もよくできていた。その一方で、おもな食料の自給率のグラフと表を読み取ってその食料を特定する問題、東京から東に進んで地球を一周する場合に上空を通過しない州を選ぶ問題では正答率が低かった。世界地図を頭の中でイメージしたりすることが難しかったと思われる。最後の問題のように1つ1つは簡単でも、3つを組み合わせると正答率が下がる。確かな知識が定着していないため、自信を持って正答を導き出せないものと思われる。

② 歴史的分野

天皇や貴族が政治を行った時代の文化を示す写真を選ぶ問題、刀狩や城下町に関する問題、資料から学制を答える問題など、日本の歴史に関する基礎的・基本的事項の理解はある程度定着しているようである。しかし、時代を画する出来事の背景を説明したり、いくつかの出来事の前後関係などを問う問題、つまり時代ごとの特徴を大きな流れの中に位置付けて理解する力が求められる問題での正答率が低かった。また、空欄に当てはまる内容を文章で表現する問題では無答が多かった。問1の(5)Cの正答率は4.2%である。古代の身分制が職業(仕事・職能でもよい)と結び付いていることを表現させる問題である。

③ 公民的分野

需給関係によって価格が変動する商品を選ぶ問題や、高齢者のいる世帯の構成別グラフの説明として誤っているものを選ぶ問題、南北問題の内容の理解を問う問題など、基礎的・基本的事項を問う問題での正答率が高かった。公民分野は3年次に学習することもあり、歴史地理分野に比べると受検生の正答

率は高い傾向がある。その反面、需要と供給と価格の関係や、三権相互の抑制と均衡のしくみに関する問題など、抽象的な内容について具体的な状況を通じて理解しておかなければならない問題での正答率が低かった。

4 三分野総合

ポツダム宣言の受け入れをラジオ放送で国民に伝えたのが天皇であったこと、その後日本を占領したのがGHQであったことなど、基本的で単独の知識を問う問題での正答率は高かった。しかし、農地改革の内容や、1ドル=308円に切り上げられたことの経済的影響など、その具体的な背景を理解しているかどうかを問う問題での正答率は低かった。問3の、日本の国連加盟が遅れた理由を問う問題は、国連のしくみや冷戦構造を理解していれば、設問中の年表と合わせて推測できる問題であるが、正答率は5.3%と低かった。そのほか、戦後の日本経済を大きくとらえ、年代順に並べる問題での正答率も低かった。

5 全体を通しての考察

地理的分野、歴史的分野、公民的分野のいずれにおいても、基礎的・基本的な知識の理解をより確実にする必要があると思われる。

そのためには、一つの事象をただ単にそれ自体として理解しようとするのではなく、因果関係などの時間的・空間的広がりを意識しながら勉強する姿勢が求められる。たとえば、廃藩置県においては、その前後の経緯、または、日ソ共同宣言による日ソ国交回復においては、その前後の日ソ関係まで着目することで、時間的・空間的な広がりをもった勉強をすることが大切である。そうすれば最後の問題のような、戦後日本経済のおもな動きを年代順に並べる問題にも対応できると考えられる。

日頃から、重要な項目だけを暗記しようとする学習ではなく、疑問点をもってじっくり学習する姿勢が求められている。社会科で求められている社会的事象に対する思考力や判断力、表現力も、その基盤には個々の事象についての広がりをもった確かな知識や理解がなければならない、ということである。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、関数、図形、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的に表現し、処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する場面を設けた。
- ② 知識や技能を数学的な見方や考え方により活用し、解決する場面を重視した。
- ③ 複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。
- ④ 思考過程や問題解決の手順などが検査できるように、記述式の解答形式を増やした。
- ⑤ 図を使って説明する問題を取り入れた。
- ⑥ 第3学年に移行措置された、新しい学習指導要領の内容を問う問題を出題した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は43.2点で、昨年より4.7点低い。最高点は92点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子44.4点、女子41.8点で男子が女子より2.6点高い。その得点分布は(図4-2 P14)に示すとおりであり、60点以上において、男子の構成比が女子のそれを上回っている。

3 平均点の推移

平成19年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P18)のように推移している。数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、全体では40点台を

推移してきた。一昨年は50点を超えたが、昨年40点台に戻り、本年はさらに低下した。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P20）

① 「数と式の四則」（基本）基礎的・基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中3問が90%を超えた。最も正答率の低いものは、単項式の乗除計算で正答率は71.7%であるが、基本的な計算処理については、ほぼ十分な定着がうかがえる。

② 「基礎的事項」（基本）基礎的な知識に基づく表現や処理ができるか。

数量の間の関係を等式で表すものが75.5%、反比例の式を求めるもので68.3%であり、移行措置に関して出題した、2次方程式の解の存在範囲、標本調査から母集団の推定では想定を大きく下回り、正答率は18.6%、13.7%であった。作図問題では、今年も知識の活用を求める問題としたが、正答率は21.8%（部分点を含めても51.4%）と想定を大幅に下回った。

③ 「総合問題」（標準・応用）ルールを理解し1次関数に表現したり、確率を求めたりすることができるか。また、数量の関係を読み取り、文字を用いて式に表現し、処理することができるかを問うた。

1のまずルールを理解し、直線を書き込んだり直線の式を求めたりする問題の正答率は49.7%、49.5%であり、ともに想定を下回った。

一方で、2の確率は19%であり、3（1）の文字を用いて処理することは32.6%、3（2）の場合を調べ上げる問題は14.4%でいずれも想定を大きく下回った。様々な分野を総合した問題に戸惑ったと思われる。

④ 「平面図形」（標準・応用）平行四辺形の基礎的な知識を活用して考察し、的確に表現や処理をすることができるか。また、説明すべき事柄を根拠を明らかにして記述することができるかを問うた。

1の合同の証明では正答率が60.5%で、部分正解者を含めると84.4%となり、証明問題としては取り組みやすかったと思われる。

一方、1の証明以外は予想を大きく下回った。移行措置された、相似比と面積比の関係は33.8%、基準の面積を元に他の面積を現す問題は13.1%、2.7%であった。

3の必要事項を解答用紙に書き込み、予想が正しいことを根拠を明らかにして説明する問題は2.3%で、慣れていない受験生にとっては難しい問題だったと思われるが、数式や言葉を使って説明する学習がますます必要であると考えられる。

⑤ 「関数」（標準・応用）関数のグラフについて、基礎的な事項を求めたり、図形の性質と総合して考察することができるか。

1の2次関数や1次関数の基本的事項については70%を超え、2の変域と3の三角形の面積の問題では60%近い値であった。一度は教科書で習ったことがあるような典型的な問題では定着がうかがえる。

一方で、図形の性質を総合的に考察する問題、様々な考え方ができる問題では、粘り強く考え抜いていく姿勢が必要である。

⑥ 「空間図形」（標準・応用）空間図形を、基礎的な知識や技能を活用して、多面的に観察・考察し、的確に処理することができるか。

1は空間内の長方形の対角線を求めるものであり、正答率は62.6%であった。三平方の定理の定着はまずまずであろう。

2では1を含め空間図形を総合的に考察することができるかを問うたが、20%台の正答率であった。また、2（2）のように、理由の説明をする問題での正答率が4.4%にとどまった。

空間図形も、空間内の平面図形として考えることにより、平面の知識が活用できる問題となるので、粘り強く考え抜いて欲しかった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え

方が要求される設問や、複数の領域の内容を総合して扱う設問では若干の課題がある。身近な場面や数学的な事象に、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用することにより、数学的なものの見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身に付けることが求められる。また、多様なアプローチができる問題に、様々な角度から取り組む経験や、ねばり強く考えること、自らの考えを言葉で表現したり、式・図形などを用いて数学的に表現したり説明したりする授業を充実することが、なお一層必要である。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。
- ② 全学年にわたり、移行措置内容も踏まえ、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。
- ④ 思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 日常的な自然現象に関心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。
- ⑥ 身近な材料を使い学習内容を確認することで、理科の有用性を感じることができるよう配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は、49.9点で前年より3.7点高い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図5-1 P15)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は51.5点、女子は48.0点で、男子が女子より3.5点高い。男女別の得点分布は(図5-2 P15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成19年度から今年度までの5年間の全体平均は(図5-3 P18)のように推移している。平成20年度に比べ、平成21年度から平均点が低くなっているが、これは解答の根拠や説明を求める論述形式や、完全解答を求める問題が増えたためであると考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

① 「動物の生活と種類」

観察した動物を共通点や相違点より分類した図を使い、基本的な語句の理解や分類する上でどのような観点で行えばよいかの思考過程を確認した。また、恒温動物と変温動物の体温と気温の関係の違いが理解できているか、草食動物と肉食動物の歯のつくりと食性の違いの関係が適切に理解できているかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かった。

② 「大地の変化」

地層をつくるれき・砂・泥が海で堆積する様子をイメージし、粒の大きさと堆積する位置を関連づけて考えることができるかを確認した。また、柱状図を読み取り、堆積した時代環境や地層に含まれる代表的な準化石を鍵として地層ができた年代などを類推できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、理由を説明する論述は50.7%の正答率であった。

③ 「身のまわりの物質」, 「物質と化学反応の利用」

実験結果をもとに、気体の性質から気体を特定したり、気体の性質と捕集法を結びつけて思考することができるかを確認した。また、気体の指示薬に対する変化や気体の製法について正しく理解できているかを確認した。4は、気体が生成される反応について、反応物質、生成物質を推測し、化学反応式を用いて表すこ

とができるかを確認した。この化学反応式に関しては、正答率が予想以上に高かった。

4 「電流とその利用」

グラフを作成させることにより、データを的確に処理し、表現する技能が身に付いているかを確認した。また、直列回路と並列回路における電圧と電流、抵抗の関係を正しく理解し、数値で表すことができるかを確認した。さらに、電熱線の種類や回路のつなぎ方を変えることで、電力の違いにより発生する熱量が異なることを科学的に思考し、説明できるかを確認した。グラフの作成と計算、論述に関して、全体的に正答率が低かった。

5 「生物の細胞と生殖」「生命の連続性」

1は、花粉管の観察において、顕微鏡が適切に操作できるかを確認した。さらに、受粉における「柱頭」「胚珠」などの基本的な用語を確認した。2は、新課程からの出題であった。植物の有性生殖において、遺伝子がどのように組み合わせられていくかを染色体とともに図示できるかを確認するとともに、種子に現れる形質をもとに遺伝における、劣性（優性）について説明できるかを確認した。全体的に正答率は高かったが、論述は49.7%の正答率であった。

6 「物質と化学反応の利用」「化学変化とイオン」

スチールウール（鉄）の燃焼に関する実験について、実験内容を正しく理解し、結果を的確に処理できるかを確認した。物質が酸素と化合する反応、電解質とイオンについて、正しく理解しているかを確認した。電解質とイオンは、新課程の出題であったが、比較的良くできていた。グラフを読み取り、結果を処理することに関しては、予想以上に正答率が低かった。基本的な知識を総合して思考する力を伸ばすことが大切である。

7 「天気とその変化」

基本的な気象観測について正しく理解しているかを確認した。また、湿度表から湿度を求める方法を理解し、実際の気象観測のデータと照らし合わせて考えることができるかを確認した。さらに、実際の気象観測のデータから天気の変化が推測できるか、気温と湿度の関係について科学的な語句を用いて説明できるかを確認した。論述については、正答率が21.6%と低かった。

8 「運動の規則性」「運動とエネルギー」

斜面及び水平面上における物体（自転車）の運動について、力、エネルギーの視点から正しく理解しているかを確認した。また、物体にはたらく斜面方向の力、物体の速さ及び力学的エネルギーの変化、物体の速さと時間の関係が正しく理解できているかを確認した。1は、新課程からの出題であった。仕事の定義を理解し、公式を用いて基本的な計算ができるかを確認した。全体的に正答率は低く、グラフの作成、計算、論述での正答率が低かった。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学習内容と、思考力や表現力が測れる形式を多く取り入れて出題した。例年通り、短答式の問題では正答率は高く、学習の成果が見られた。また、新課程の範囲からの問題は、昨年度に比べて正答率が高かった。一方、結果の理由を問う問題では正答率が低く、思考過程に曖昧な部分があることを示唆する結果であった。また、いくつかの基本的な内容を組み合わせる総合的に思考する問題、グラフ等を活用して正答を導く問題や計算問題は正答率が低かった。科学的な知識を活用して思考する力や、その過程を表現する力の育成が望まれる。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度

を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。

- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を約30%とした。
- ③ 「読むこと」については、使用語数を増やすことで長文化を図るとともに、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した内容を踏まえて自分の経験を書かせるなど、自己表現を促す問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別にみた度数分布

平均点は53.1点で、前年より9.2点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その分布は(図6-1 P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は52.1点、女子は54.2点で、女子が男子より2.1点高い。男女別の得点分布は(図6-2 P16)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成19年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P18)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度を10点近く下回った。大問1~3は主に「聞くこと」に関する力を検査している。問題形式が一部変わったが、昨年同様に平均点は高く、受験生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがわれる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より60語程度増やし、まとまった英文を速く的確に理解する力を検査できるようにした。英文量を増やしたことや読解したことを適切な英語で表現する設問を設けたことで、平均点が下がったのではないかと考えられる。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力を総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較でみると、昨年同様女子が男子を上回っているが、今年度においては、その差は2.1点と昨年の4.5点に比べ縮まっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、その内容に係るものを選んだり、表に関する質問に対する答えを選んだりする問題。情報を的確に聞き取る力や、表に関する質問を聞き取った上で表から必要な情報を的確に探し出す力を試す問題である。音声とイメージやデータを的確に結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

平均正答率は94.6%と昨年度の83.3%を上回った。基本的な聞き取る能力は良好といえる。

② 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。

平均正答率は、84.6%であり、昨年度の同形式の問題の74.2%を上回っている。

③ 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

まとまった内容の英文を2つ聞いて、各英文の内容に関する質問に答える問題。各英文のテーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試しているもので昨年度にはなかった問題形式である。

平均正答率は79.1%と全体では8割近い平均点となった。1-1の正答率が64.5%と他と比較して低かったのは、質問の内容から、現在形と過去形の違いを聞き取ることが難しかったためと考えられる。

4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の由美と、彼女の学校に留学しているMikeが、日本語のひらがな・漢字と、英語のアルファベットのそれぞれの成り立ち等について対比している会話である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料(単語、文法等)についての知識、文脈を把握した上で読解したり、表現したりする能力、英語を言い換えて表現する力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を評価できるようにした。単語の空欄補充問題では、本文中には出てこない単語を文脈や文法知識を活用して解答させた。また、英文補充問題では、複数の英文の中から文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にした。さまざまな観点から読解力や基本的な表現力を評価できるようにした。

設問1の本文中の空欄に文脈から考えて適語を入れる問題及び設問6の本文と同じ内容になるよう英文中に適語を入れる問題は、それぞれ平均正答率が39.2%、12.1%と低かった。理解した英文の内容を、本文中に使われていない英語で表現する力に課題がある。

設問4、5の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題は、正答率が各6.1%、24.3%と低かった。また、0点の者が各54.1%、52.2%と過半数を超えていた。設問4は、不定詞の形容詞的用法、設問5は現在完了を使って英語を書くことがポイントとなったが、基本的な文法知識を使って英文で表現する力に課題があるようだ。

5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

高校生の美和が、中学校時代に父親と二人で富士山に登った経験を、“My Precious Memory”(私の大切な思い出)というタイトルで書いた英文である。美和は、富士登山を通して、目標に向かって努力し続けることの大切さを父親から教えられた。その思い出が時系列で書かれている。質問の答えを選択させたり、内容をまとめた英文を完成させたり、内容を時系列で考えさせたり、文中の空所に文脈から判断して適切な英文を補充させたりすることで、様々な観点から英語を読解する能力を評価できるようにした。また、同じタイトルで、五つ以上の英文を書かせることで、コミュニケーションが成立するように英語で適切に表現する能力を評価できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問5は、本文の内容を読んだ外国語指導助手(ALT)の感想の形で視点を変えて要約する問題であるが、平均正答率は20.8%と低かった。これも読解した英文を適切に要約する力を試す問題であるが文法知識と文脈を理解する力の両者が求められている。

設問6は本文を踏まえ、受検者自身の“My Precious Memory”(私の大切な思い出)を五つ以上の英文で書く問題であったが、正答率は15.4%と昨年度の38.3%を下回っている。しかしながら、無答の者は19.7%に留まっており、五文以上は書けなかったものの、なんとか自分のことを表現しようとする態度はうかがえた。自分のことを適切に相手に伝えるということをより意識しながら、英語を書くことを指導することが求められる。

5 全体を通しての考察

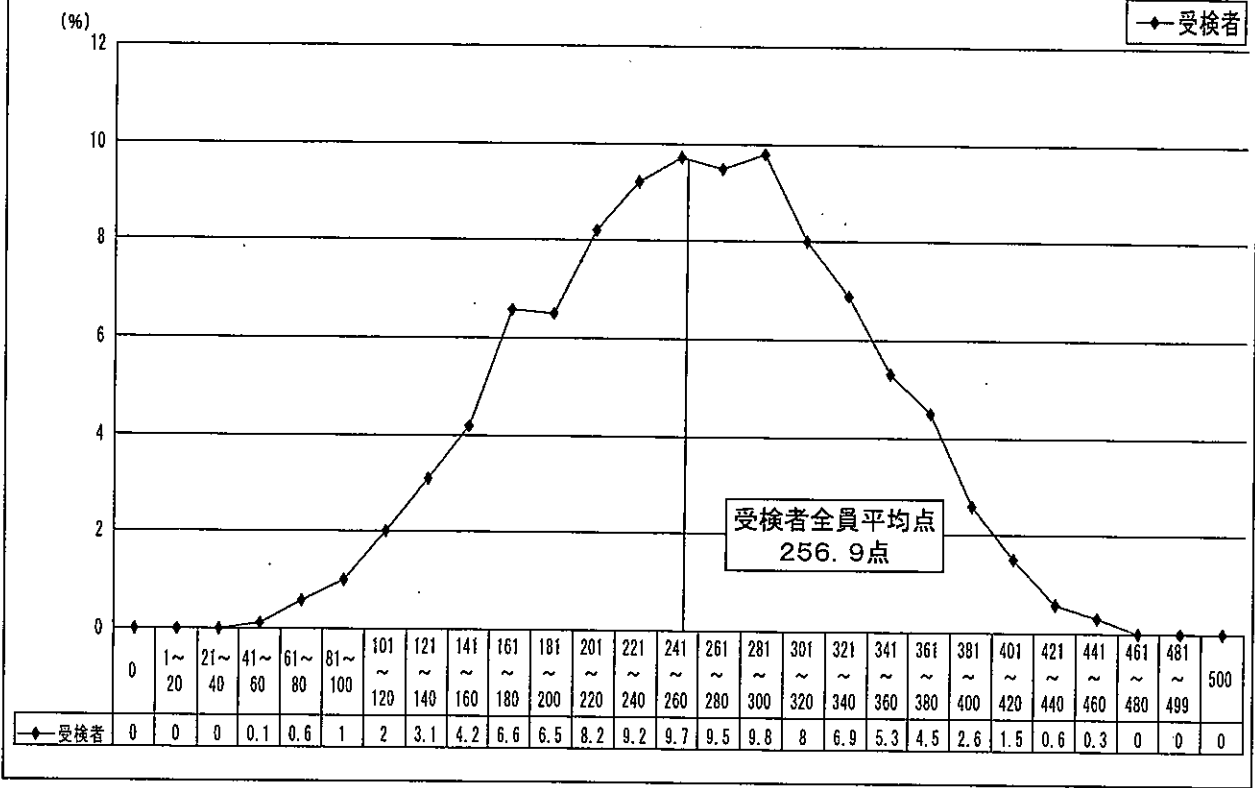
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

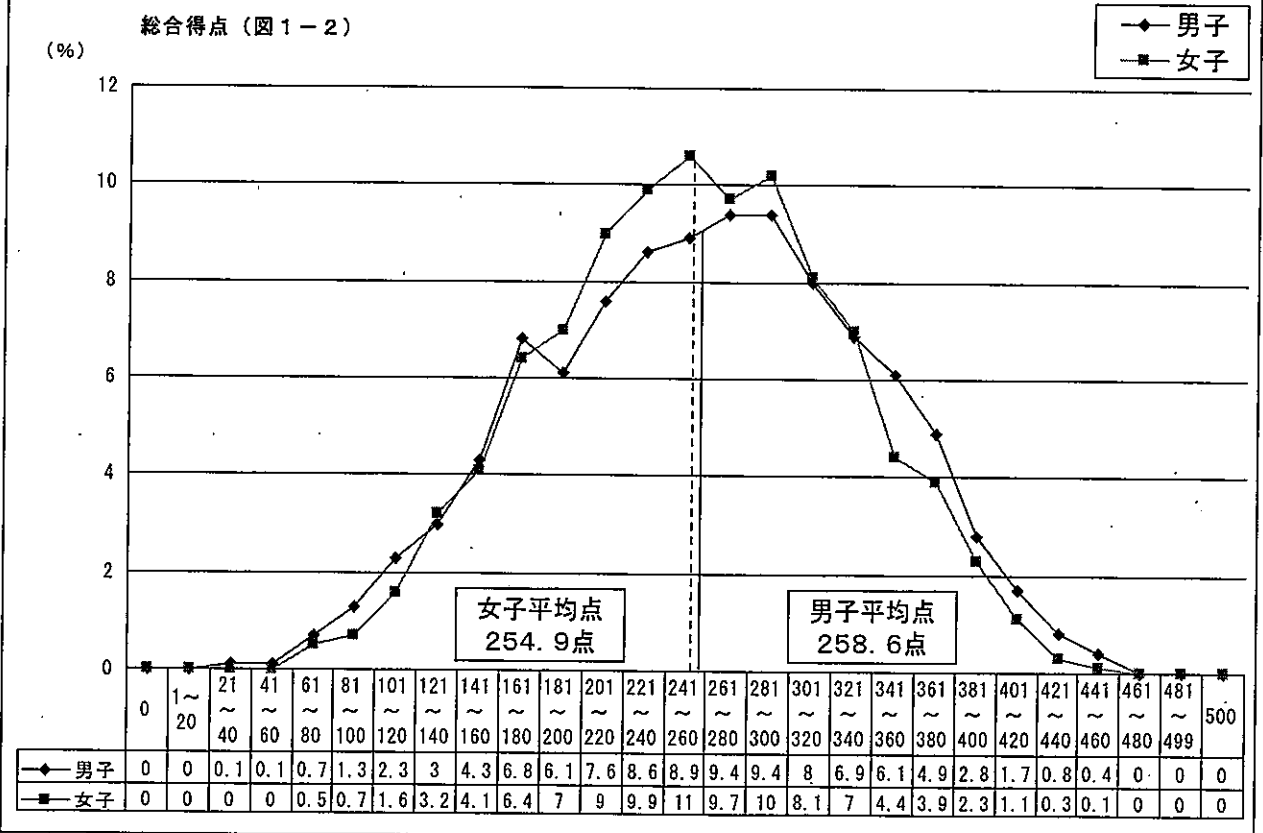
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。内容を理解した上で、文脈を踏まえて自分の表現で要約する力には課題が残る。

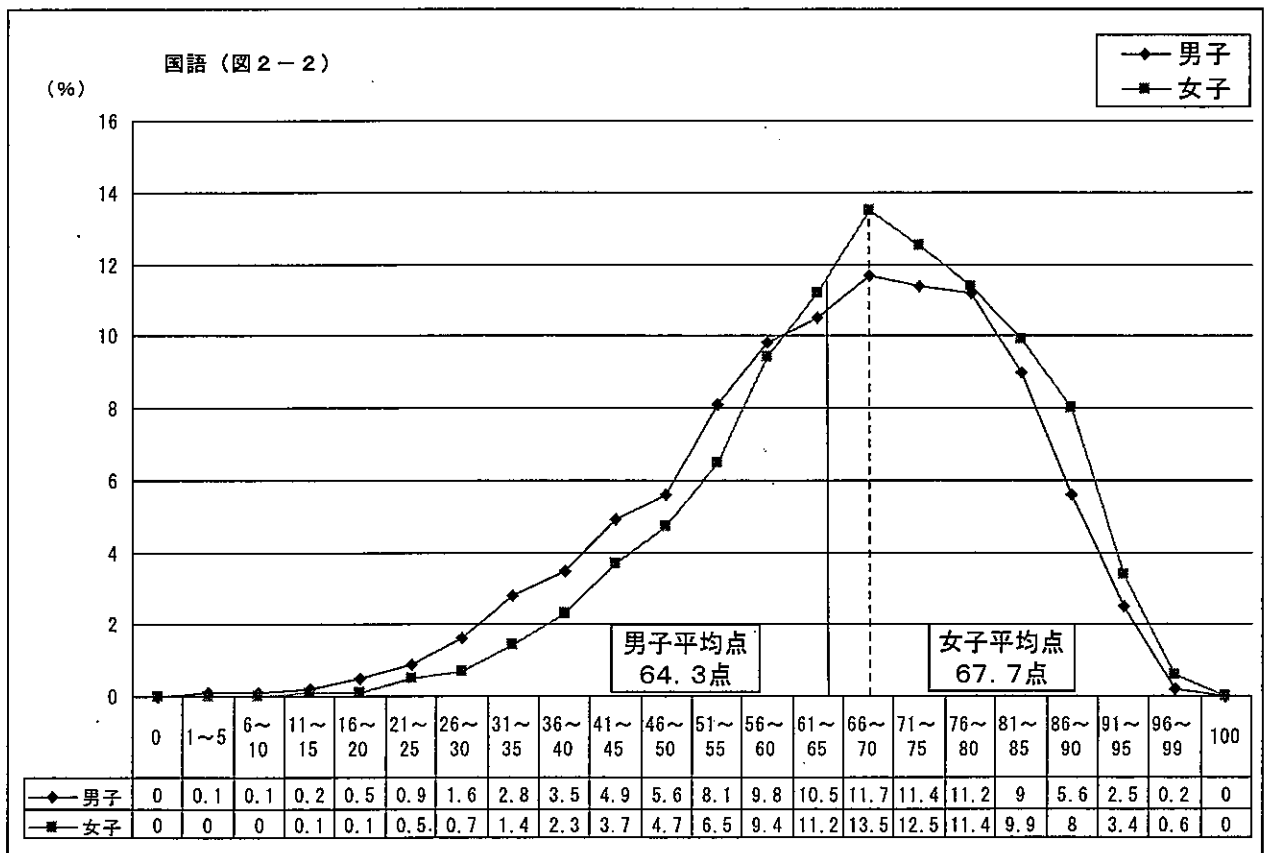
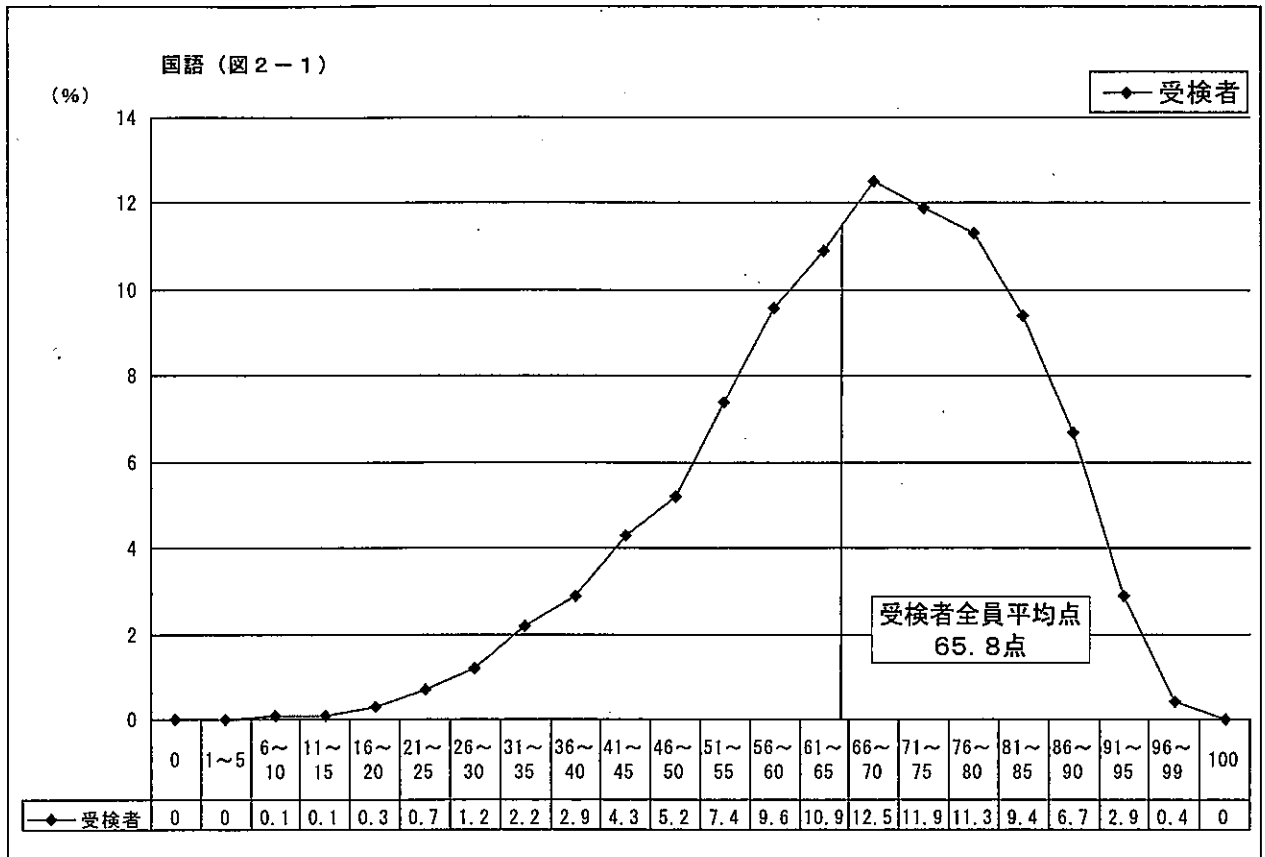
「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して自分の考えをまとめた英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項を使って、的確に表現する力の育成も課題である。

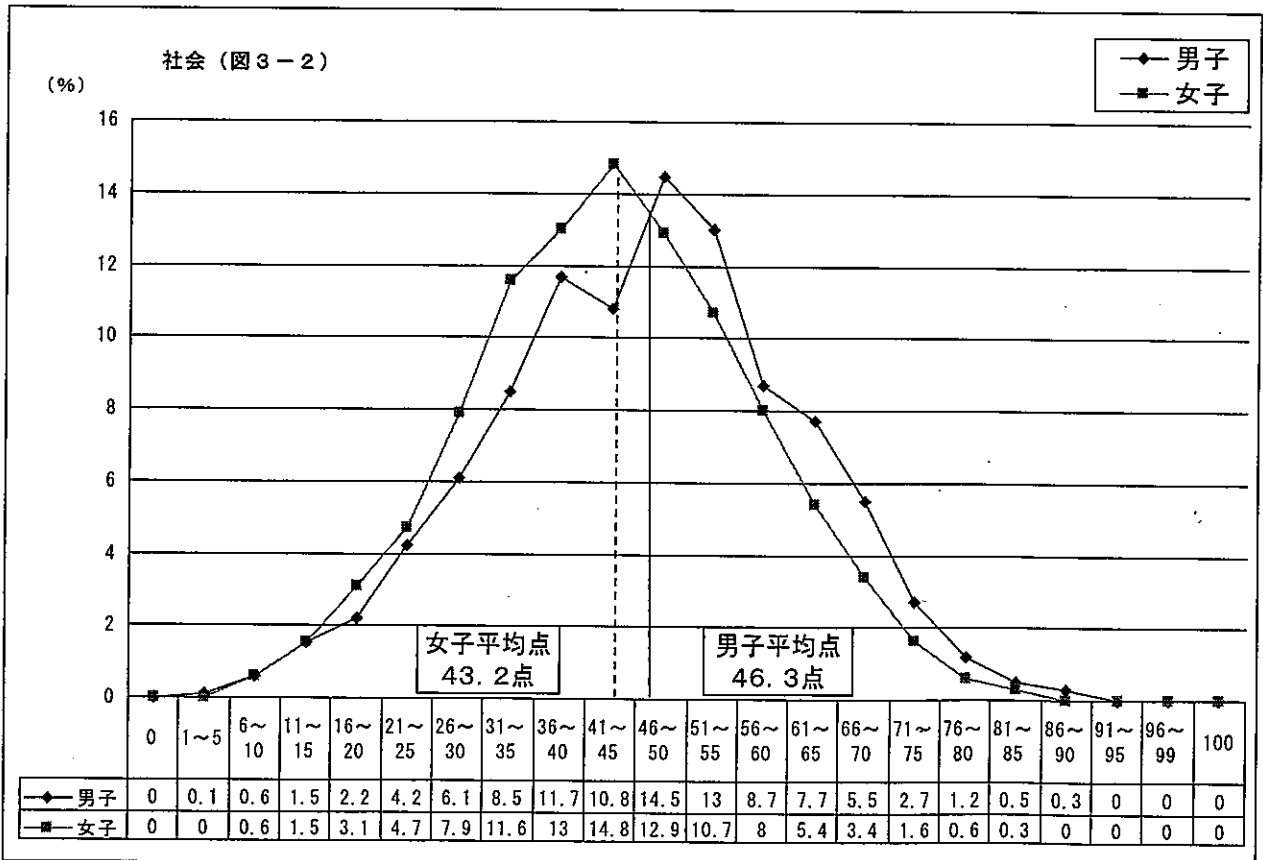
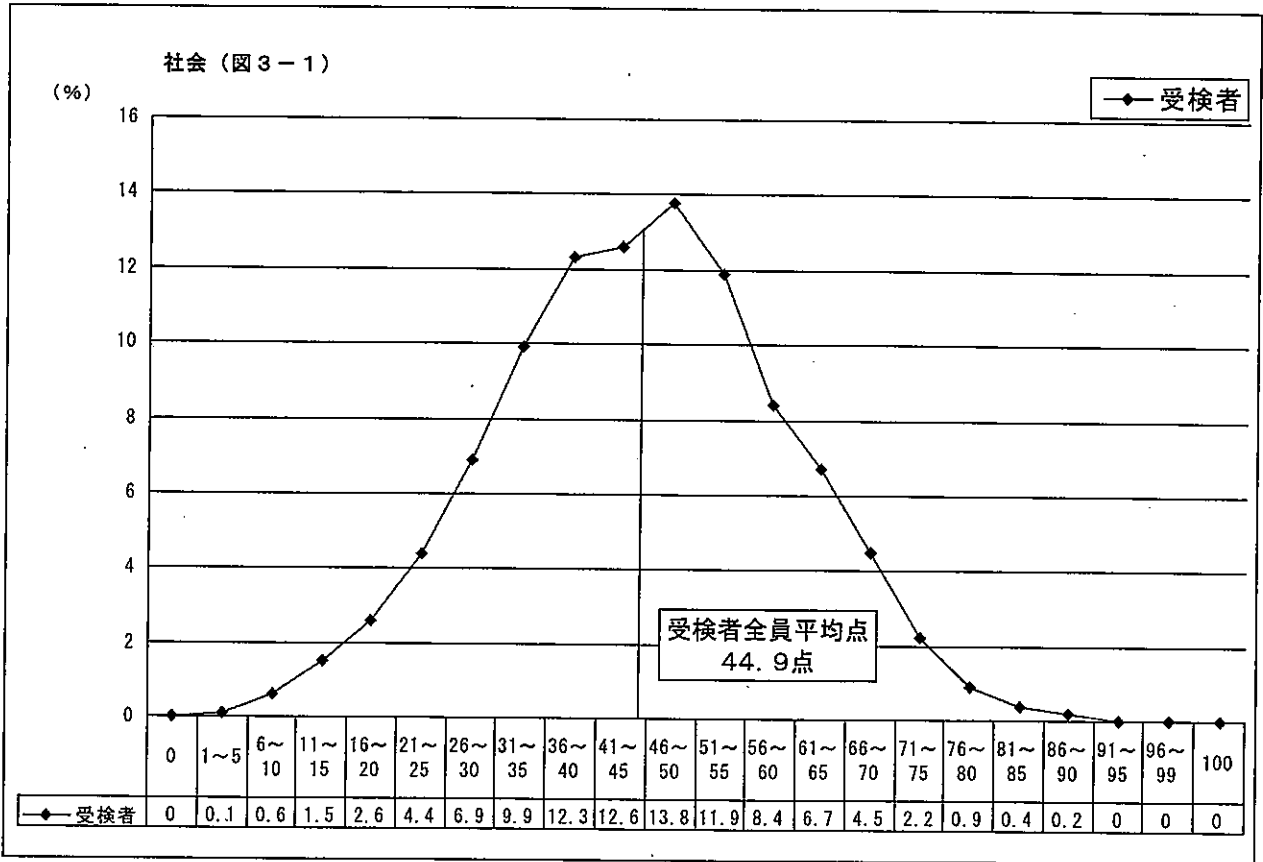
総合得点 (図1-1)

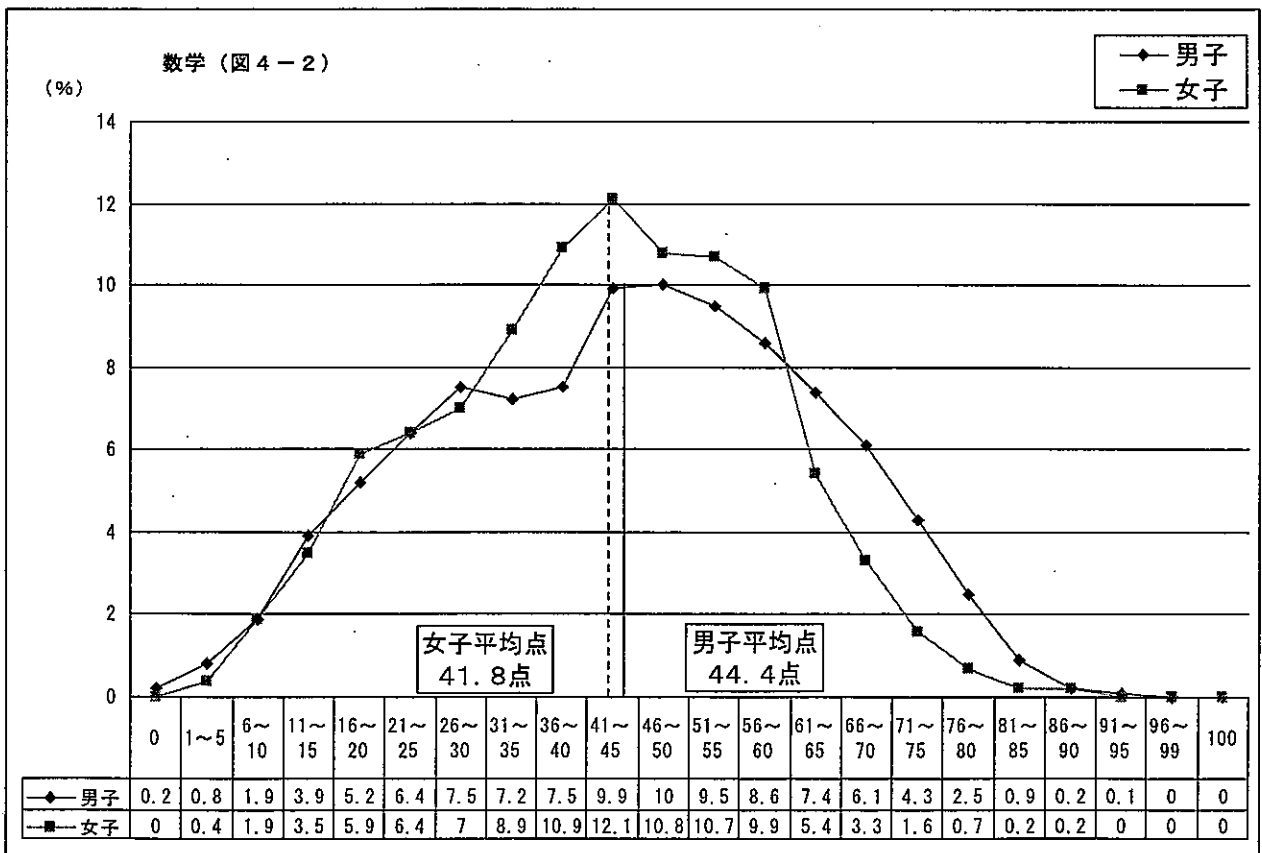
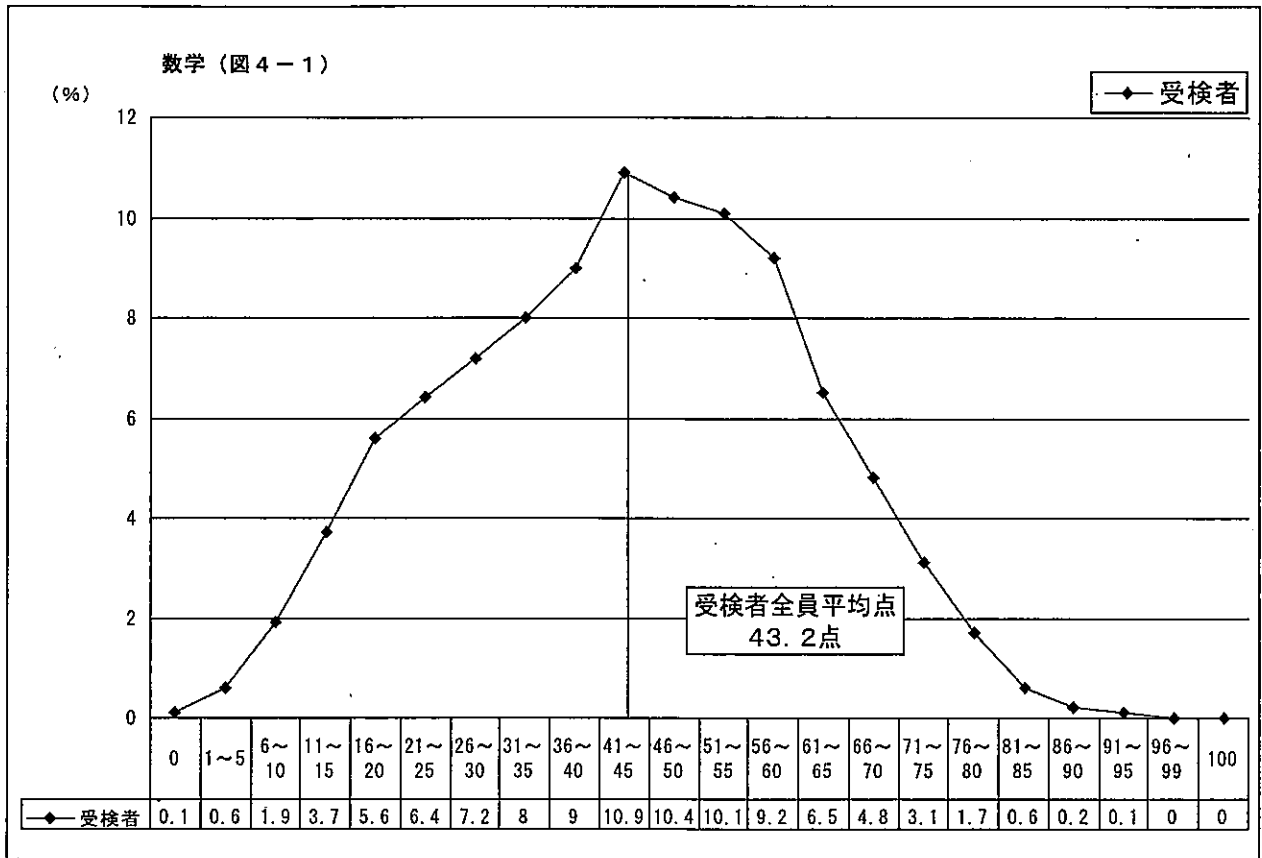


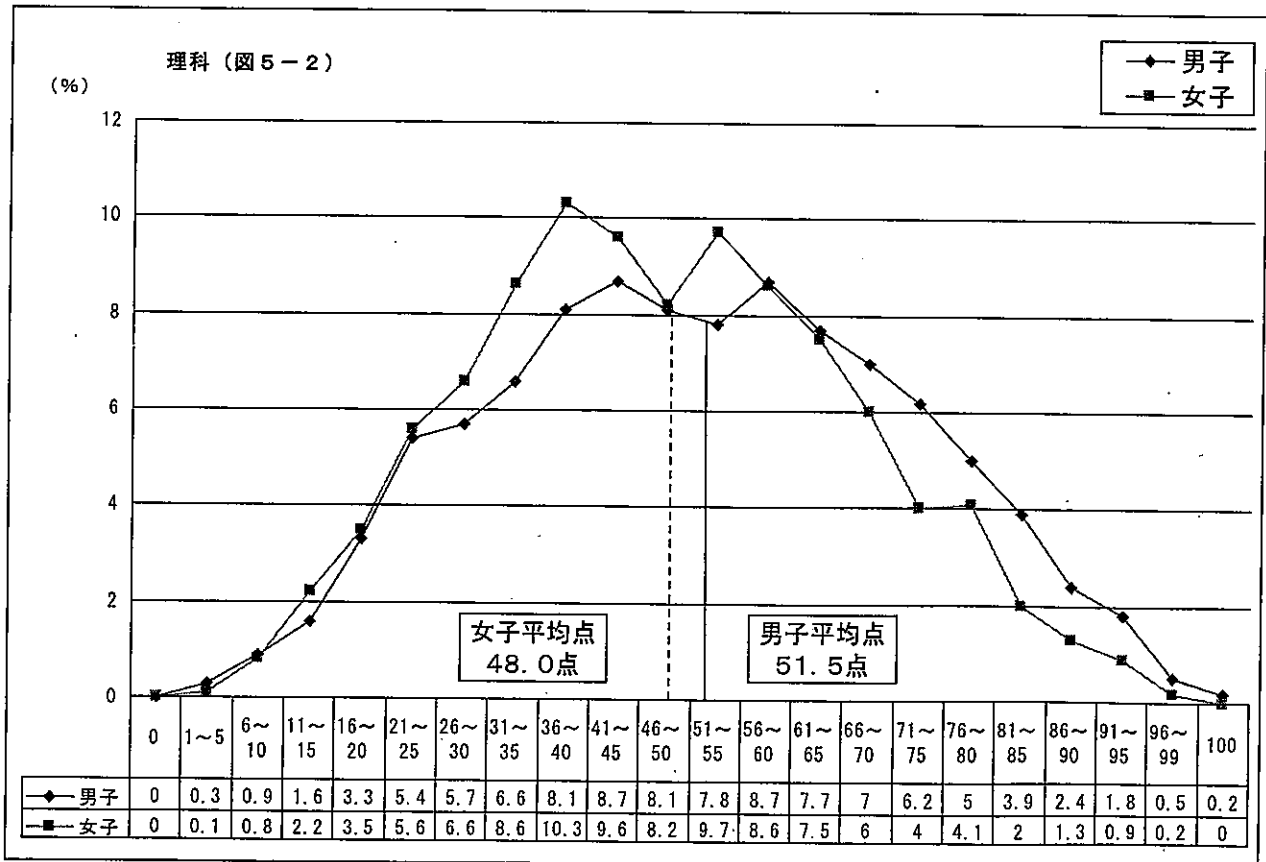
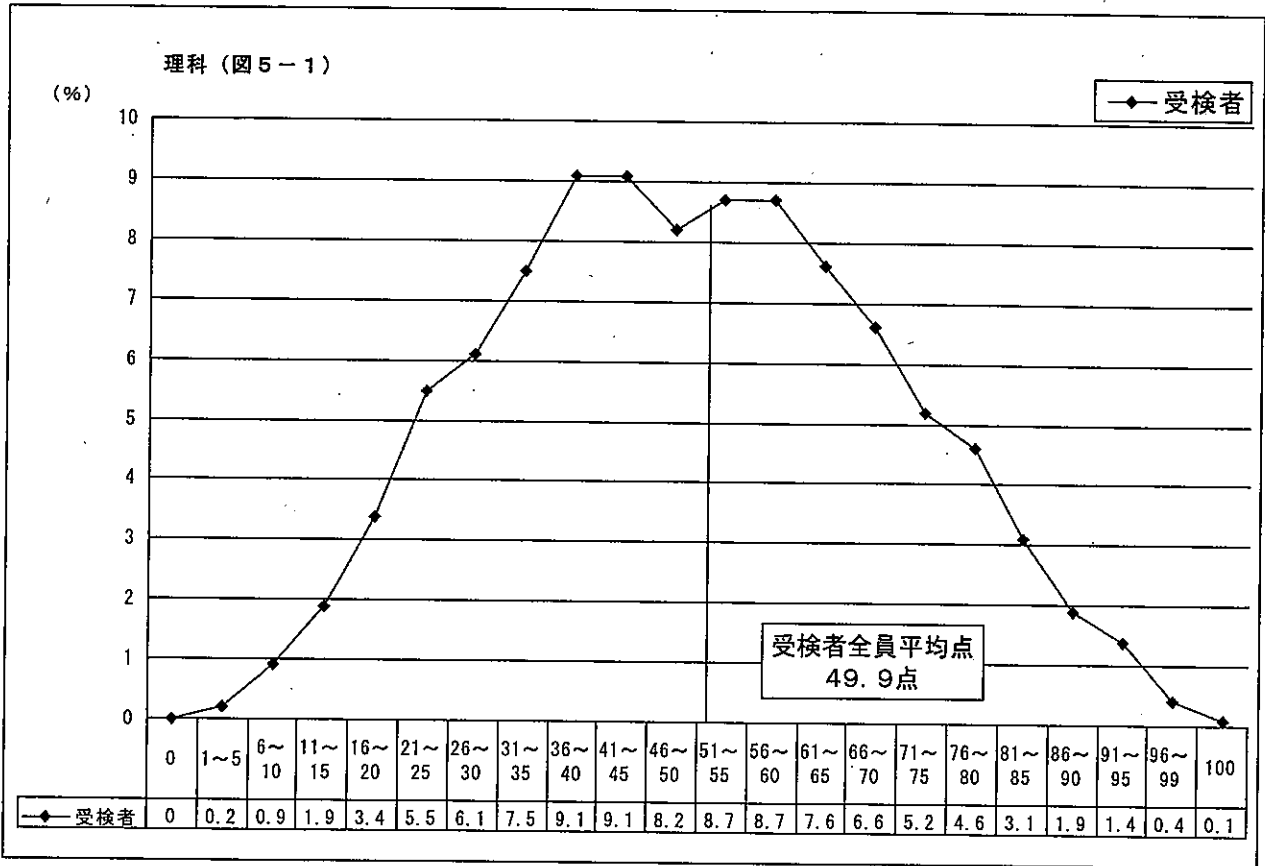
総合得点 (図1-2)

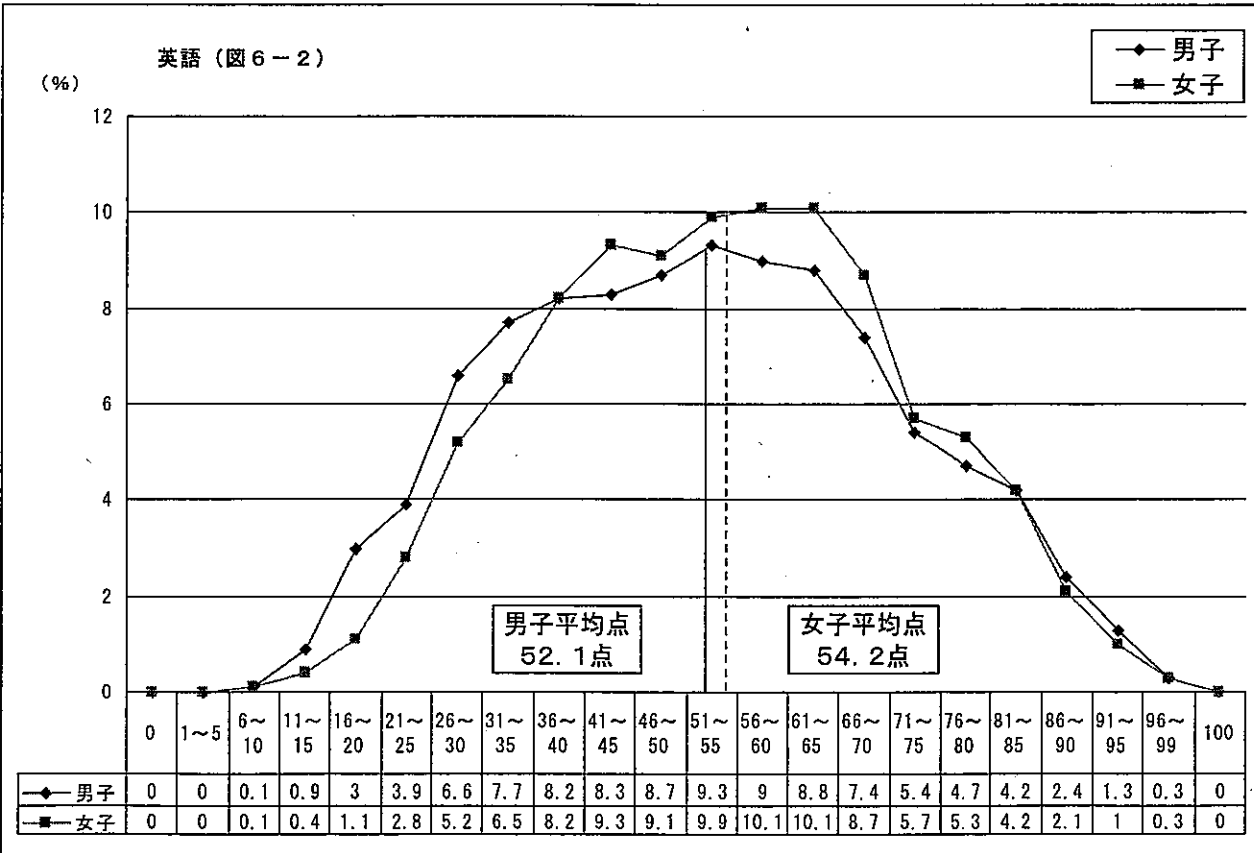
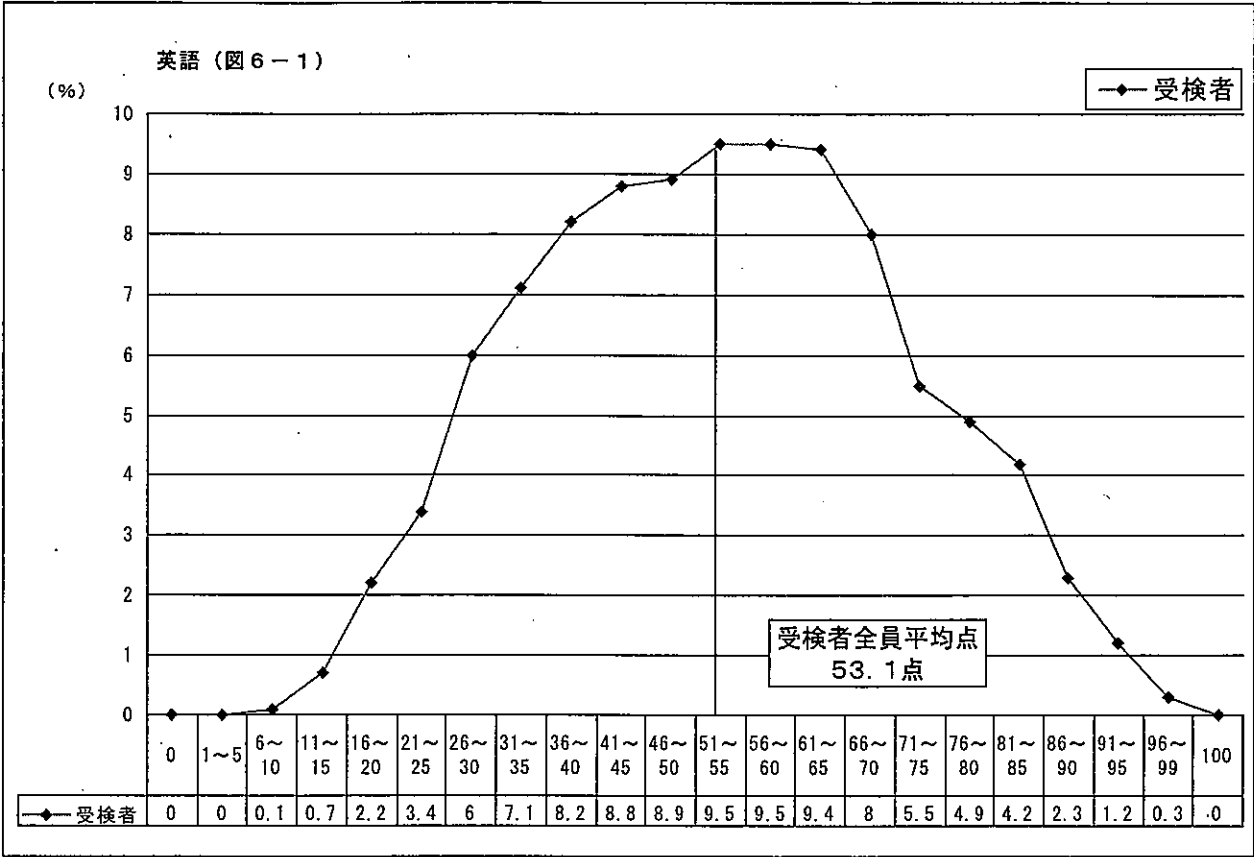




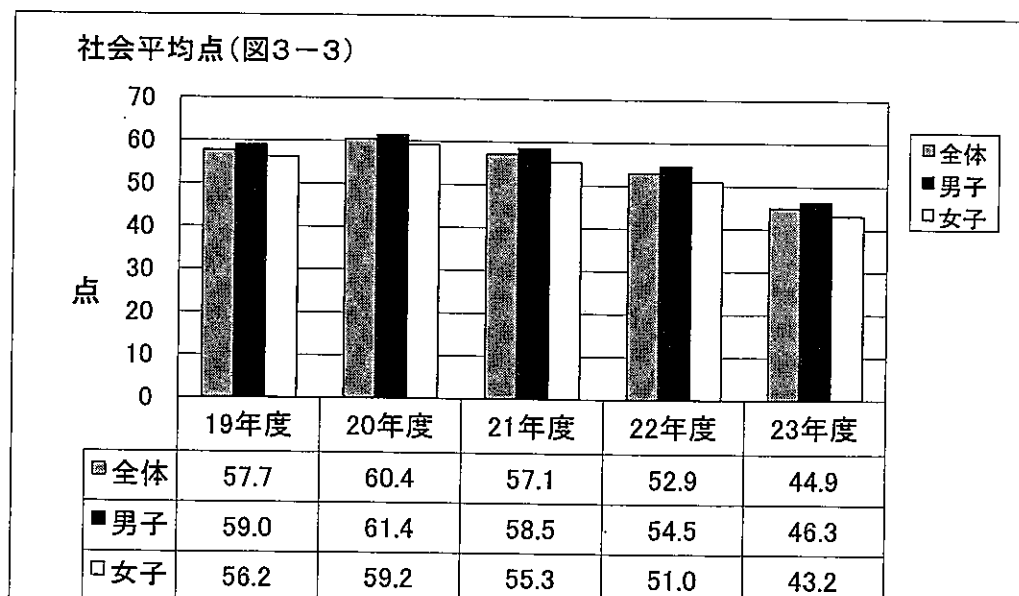
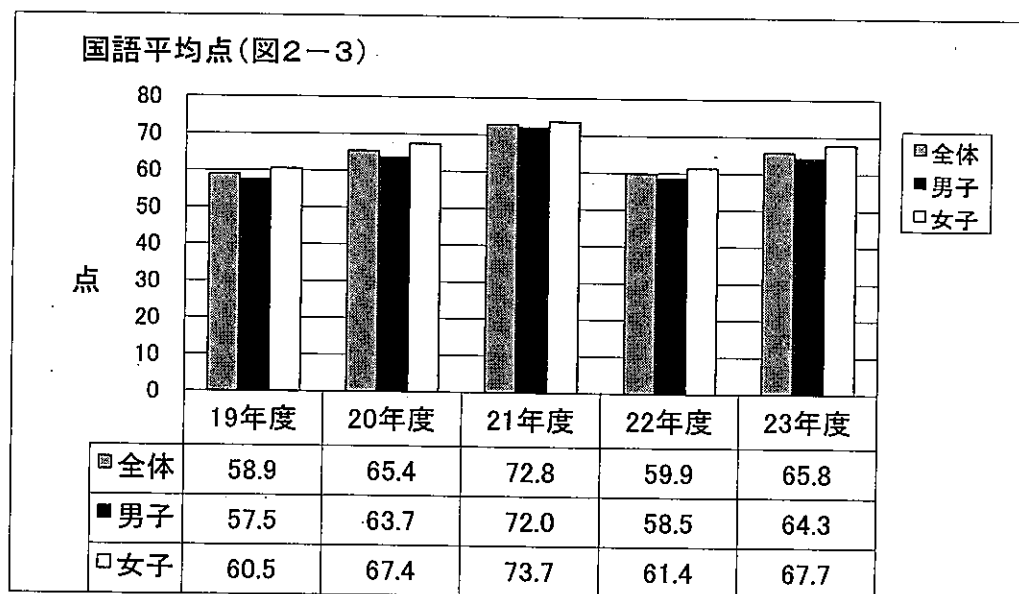
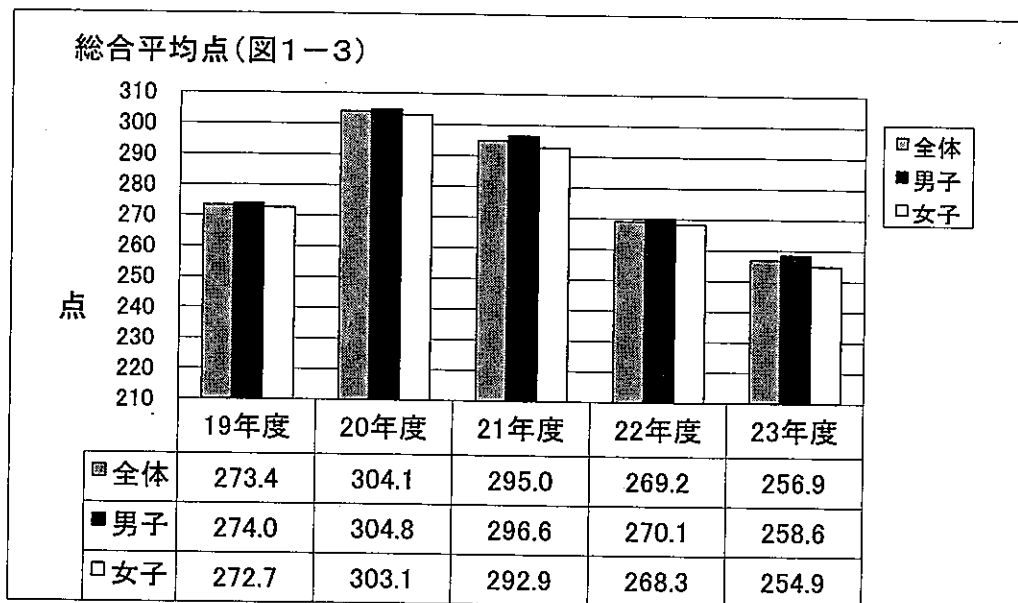




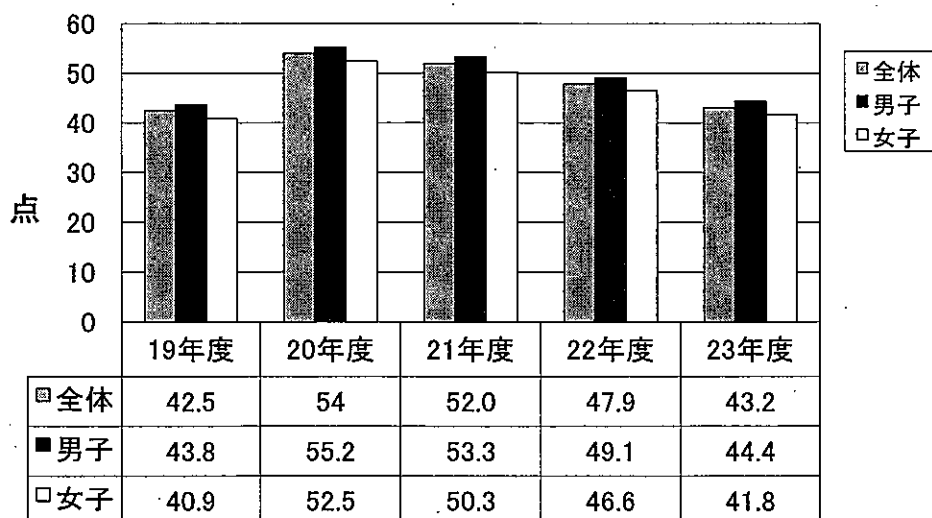




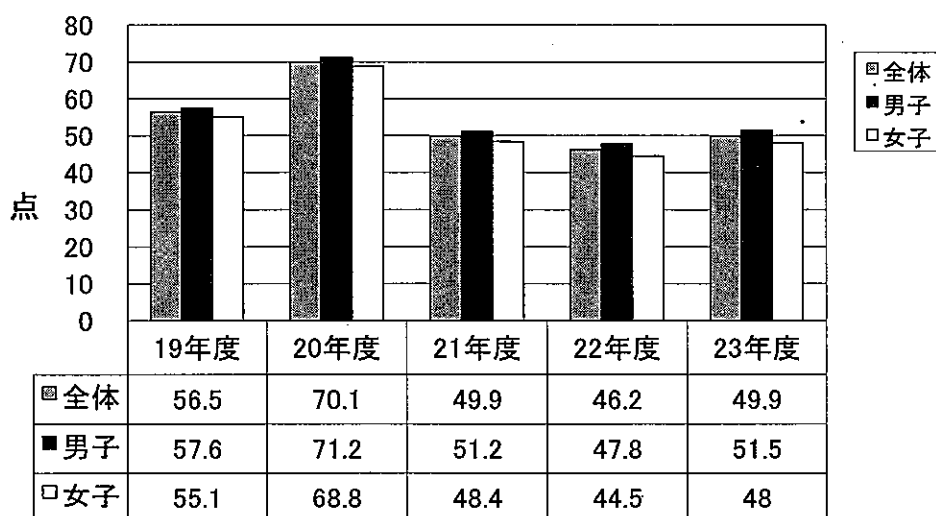
平成23年度 学力検査結果



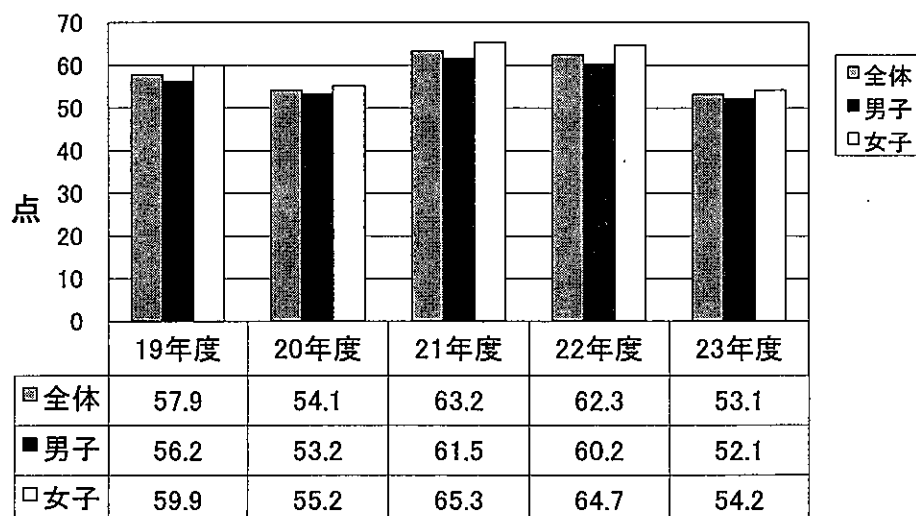
数学平均点(图4-3)



理科平均点(图5-3)



英語平均点(图6-3)



平成23年度 正答率調査表

【国語】

問 題		正答数	誤答数	無答数	
一	一	ア	99.8%	0.2%	0.0%
		イ	97.9%	1.9%	0.2%
		ウ	79.7%	18.6%	1.7%
		エ	54.3%	41.9%	3.8%
		オ	81.0%	14.6%	4.4%
	二	ア	85.6%	12.5%	1.9%
		イ	48.6%	29.8%	21.6%
		ウ	86.7%	10.8%	2.5%
		エ	72.7%	15.6%	11.6%
	三	オ	60.7%	32.3%	7.0%
		三	91.5%	8.5%	0.0%
		四	61.3%	38.3%	0.4%
		二	71.2%	28.3%	0.4%
二	一	47.8%	44.0%	8.2%	
	二	65.5%	34.2%	0.2%	
三	一	二	31.7%	57.3%	11.0%
		三	38.7%	52.0%	9.3%
		四	67.9%	30.7%	1.5%
		五	68.3%	26.6%	5.1%
	五	(1)	90.5%	8.7%	0.8%
		(2)	88.2%	8.2%	3.6%
		(3)			

問 題		正答数	誤答数	無答数		
四	一	一	91.8%	8.2%	0.0%	
		二	87.3%	12.7%	0.0%	
		三	55.8%	37.6%	6.6%	
		四	62.6%	36.6%	0.8%	
		五	51.6%	44.6%	3.8%	
	六	(1)	79.9%	19.2%	0.8%	
		(2)	47.6%	33.2%	19.2%	
	七	得点		人数	得点	人数
		0	4.9%	8	15.0%	
		1	0.8%	9	12.3%	
		2	1.5%	10	11.2%	
		3	2.5%	11	5.7%	
		4	3.6%	12	3.6%	
		5	7.8%	13	1.3%	
		6	14.6%	14	0.4%	
7	14.4%	15	0.4%			

【社会】

問 題		正答数 (部分点数)		誤答	無答		
1	1	(1)	名前	2点 7.4%	88.4%	4.0%	
			記号	1点 0.2%			
				22.2%	76.1%	1.7%	
		(2)	3点	44.2%	55.0%	0.6%	
			2点	0.2%			
	(3)	20.1%	79.7%	0.2%			
	(4)	3点	66.2%	13.7%	1.1%		
		2点	19.0%				
		1点	0.0%				
	(5)	35.5%	64.1%	0.4%			
	2	(1)	ア	2点	13.5%	5.2%	1.0%
				1点	0.0%		
			イ	2点	0.9%	4.6%	
				1点	0.0%		
			ウ	2点	19.0%	9.8%	
				1点	0.0%		
		エ	2点	12.0%	7.7%		
1点			0.2%				
オ		2点	23.1%	3.1%			
		1点	0.1%				
(2)		3点	65.8%	27.5%	0.8%		
(3)		2点	5.9%	56.0%	0.2%		
	43.8%						
(4)	15.0%	84.4%	0.6%				
2	1	(1)	3点	38.9%	51.4%	8.2%	
			2点	1.5%			
		(2)	3点	30.0%	44.8%	23.7%	
			2点	1.5%			
	(3)	17.1%	82.7%	0.2%			
	(4)	66.8%	32.8%	0.4%			
	(5)	A	70.4%	24.7%	4.9%		
		B	61.9%	20.9%	17.1%		
C		4.2%	79.5%	16.3%			

問 題		正答数 (部分点数)		誤答数	無答数	
2	2	(1)	2点	74.8%	24.7%	0.4%
			1点	0.0%		
		(2)	3点	9.9%	50.7%	30.2%
			2点	8.0%		
	(3)	a	70.6%	19.0%	10.4%	
		b	16.7%	81.2%	2.1%	
		(4)	13.5%	85.8%	0.6%	
		1	(1)	38.7%	60.9%	0.4%
	3	2	(1)	94.3%	5.5%	0.2%
			(2)	90.3%	9.5%	0.2%
3		(1)	3点	34.2%	56.0%	5.3%
			2点	4.4%		
(2)		作図	75.5%	17.8%	6.8%	
		語句	2点 73.6%	21.4%	4.7%	
4	(1)	1点	0.4%	50.1%	1.1%	
		48.8%				
(2)	(1)	41.2%	58.6%	0.2%		
	(2)	3点 25.6%	52.4%	18.6%		
4	2	i	81.0%	13.3%	5.7%	
		a	2点 55.8%	28.1%	14.2%	
	3	b	1点	1.9%	50.1%	16.5%
			2点	24.7%		
		(3)	3点	8.7%	72.1%	14.4%
			2点	5.3%		
	4	X	6.1%	13.3%	5.7%	
		Y	2.1%			
	5	X	81.0%	40.4%	19.5%	
		Y	40.2%	44.0%	1.7%	
6	5	54.3%	44.0%	1.7%		
	6	3点 28.1%	51.4%	17.5%		
7	2点	3.0%	32.1%	65.1%		
	7	32.1%				

【数 学】

問 題		正答数	部分 解答数	誤答数	無答数	
1	1	93.9%		6.1%	0.0%	
	2	92.6%		7.0%	0.4%	
	3	94.7%		5.1%	0.2%	
	4	79.5%		19.0%	1.5%	
	5	71.7%		27.7%	0.6%	
	6	89.2%		10.4%	0.4%	
2	1	75.5%		22.6%	1.9%	
	2	18.6%		78.4%	3.0%	
	3	13.7%		63.6%	22.6%	
	4	68.3%		24.3%	7.4%	
	5	21.8%	29.6%	29.4%	19.2%	
3	1	(1)	49.7%	13.5%	30.4%	6.3%
		(2)	49.5%		36.6%	14.0%
	2	19.0%		51.6%	29.4%	
	3	(1)	32.6%		38.7%	28.8%
		(2)	14.4%		31.3%	54.3%

問 題		正答数	部分 解答数	誤答数	無答数		
4	1	60.5%	23.9%	7.6%	8.0%		
	2	(1)	33.8%		60.3%	5.9%	
		(2)	△FDA	13.1%		42.3%	44.6%
			□FBCE	2.7%		38.5%	58.8%
	3	2.3%	4.0%	35.1%	58.6%		
5	1	a	74.4%		17.5%	8.0%	
		b	67.9%		23.7%	8.5%	
	2	58.8%		33.0%	8.2%		
	3	57.3%		19.9%	22.8%		
	4	(1)	32.6%		28.1%	39.3%	
(2)		0.0%	0.4%	48.4%	51.2%		
6	1	62.6%		30.0%	7.4%		
	2	(1)	21.4%		43.1%	35.5%	
		(2)	比	21.1%		37.6%	41.2%
			説明	4.4%		29.4%	66.2%
			(3)	1.3%		30.7%	68.1%

【理 科】

問 題		正答・部分点数		誤答数	無答数	
		正 答	部分点			
1	1	95.8%		3.2%	1.1%	
	2	72.5%		27.5%	0.0%	
	3	67.7%		32.3%	0.0%	
	4	記号	94.3%		5.5%	0.2%
理由		75.9%	0.4%	23.0%	0.6%	
2	1	名称	63.4%		33.8%	2.7%
		理由	50.7%	1.3%	43.6%	4.4%
	2	47.4%		52.2%	0.4%	
	3	63.2%		36.8%	0.0%	
3	1	記号	72.1%		27.1%	0.8%
		理由	53.5%	5.5%	38.9%	2.1%
	2	64.7%		34.9%	0.4%	
	3	化学式	72.9%		23.9%	3.2%
		記号	31.7%	35.9%	31.1%	1.3%
4	49.5%	0.2%	36.8%	13.5%		
4	1	36.4%	0.6%	57.5%	5.5%	
	2	32.8%		55.0%	12.3%	
	3	6.8%		81.4%	11.8%	
	4	記号	33.6%		57.5%	8.9%
理由		23.0%	5.9%	54.8%	16.3%	

問 題		正答・部分点数		誤答数	無答数	
		正 答	部分点			
5	1	(1)	79.9%		20.1%	0.0%
		(2)	87.1%		11.4%	1.5%
		ア	59.8%		36.4%	3.8%
	2	(1)	59.0%	3.8%	35.7%	1.5%
(2)		49.7%	1.3%	40.0%	9.1%	
6	1	84.8%		15.2%	0.0%	
	2	a	75.7%		20.7%	3.6%
		b	72.3%		21.6%	6.1%
	3	(1)	27.1%		49.3%	23.7%
(2)		10.4%		77.2%	12.5%	
7	4	45.7%	1.7%	38.7%	14.0%	
	1	59.6%	14.4%	26.0%	0.0%	
	2	49.7%		49.7%	0.6%	
	3	72.5%		26.8%	0.6%	
8	4	記号	48.6%		46.1%	5.3%
		記述	21.6%	1.9%	58.6%	18.0%
	1	7.8%	0.0%	76.3%	15.9%	
	2	(1)	35.9%		62.6%	1.5%
(2)		66.2%		32.3%	1.5%	
3	38.9%		52.2%	8.9%		

【英 語】

問題	正答数	誤答数	無答数		
1	1	99.4%	0.6%	0.0%	
	2	96.6%	3.4%	0.0%	
	3-1	92.0%	8.0%	0.0%	
	3-2	90.3%	9.7%	0.0%	
問題	正答数	誤答数	無答数		
2	1	81.0%	19.0%	0.0%	
	2	85.6%	14.4%	0.0%	
	3	85.6%	14.4%	0.0%	
	4	86.0%	14.0%	0.0%	
問題	正答数	誤答数	無答数		
3	1-1	64.5%	35.3%	0.2%	
	1-2	94.3%	5.7%	0.0%	
	1-3	90.5%	9.5%	0.0%	
	2-1	75.7%	24.3%	0.0%	
	2-2	73.6%	26.4%	0.0%	
	2-3	75.7%	24.3%	0.0%	
問題	正答数	誤答数	無答数		
4	1	A	83.7%	14.2%	2.1%
		B	4.4%	73.2%	22.4%
		C	29.6%	60.3%	10.1%
	2	Ⓐ	83.1%	16.9%	0.0%
		Ⓑ	73.6%	26.4%	0.0%
		Ⓒ	82.5%	16.7%	0.8%
	3	①	61.1%	37.8%	1.1%
		②	43.6%	55.6%	0.8%
		③	72.3%	26.8%	0.8%
	4	4	点数	人数	
			4	6.1%	
			3	18.8%	
2			14.2%		
1			6.8%		
0			54.1%		
0点のうち無答数→			19.5%		
5		4	24.3%		
		3	12.1%		
		2	7.6%		
	1	3.8%			
0点のうち無答数→			12.3%		

問題	正答数	誤答数	無答数		
4	6	①	1.5%	89.0%	9.5%
		②	18.6%	66.4%	15.0%
		③	16.3%	70.6%	13.1%
問題	正答数	誤答数	無答数		
5	1	①	56.7%	43.1%	0.2%
		②	49.0%	50.5%	0.4%
	2	点数	人数		
		4	22.2%		
		2	63.0%		
		0	14.8%		
		2点, 0点のうち, 無答が			
		ひとつの者の数→			1.9%
	ふたつの者の数→			1.3%	
	3	正答数	誤答数	無答数	
		36.4%	60.9%	2.7%	
	4	56.7%	40.4%	3.0%	
	5	A	51.2%	33.6%	15.2%
		B	7.8%	70.8%	21.4%
		C	4.4%	65.8%	29.8%
D		19.7%	48.2%	32.1%	
6	6	点数	人数		
		10	15.4%		
		9	9.1%		
		8	11.2%		
		7	4.9%		
		6	5.7%		
		5	4.4%		
		4	3.6%		
		3	3.4%		
		2	6.8%		
	1	2.7%			
	0	32.8%			
	解答の正誤にかかわらず				
6文以上書いた者の数→			12.1%		
5文書いた者の数→			39.5%		
4文書いた者の数→			6.1%		
3文書いた者の数→			7.4%		
2文書いた者の数→			5.7%		
1文書いた者の数→			9.5%		
無答の者の数→			19.7%		